



COVID-19と 子どもの 療養生活

COVID-19と
子どもの療養生活ワーキンググループ

本資料は

日本小児看護学会 第31回学術集会

理事会特別企画「COVID-19と子どもの療養生活」にて、
COVID-19と子どもの療養生活ワーキンググループ長
小林京子が話題提供した際のスライドです。

日本小児看護学会COI開示

小林 京子

聖路加国際大学大学院

演題発表に関連し、

発表者及びすべての共同発表者には、

開示すべきCOI関係にある企業・組織及び団体などはありません。

経緯と方法

- 日本小児看護学会にて「COVID-19と子どもの療養生活ワーキンググループ」を発足
メンバー 東北大学 入江亘
伊東市民病院 上原章江
千葉大学 佐藤奈保
名古屋大学 新家一輝
聖路加国際大学 小林京子
- 日本小児科学会の協力を得「（旧制度）専門医研究施設リスト」の466施設調査対象
- 調査期間：2020年12月～2021年2月
- 協力回答施設数：186/466施設（協力率39.9%）
- 看護師（管理者）：111件（回収率39.1%）
- 看護師（スタッフ）：425件（おおよその回収率29.1%）

調査項目

属性について

- 病院／病棟について
- 新型コロナウイルス感染症患者の受け入れについて

入院中の子どもの療養へのCOVID-19の影響について

- 新型コロナウイルス感染症発生後の病棟の決まり・制限について
- 患者・家族への説明や教育的支援について

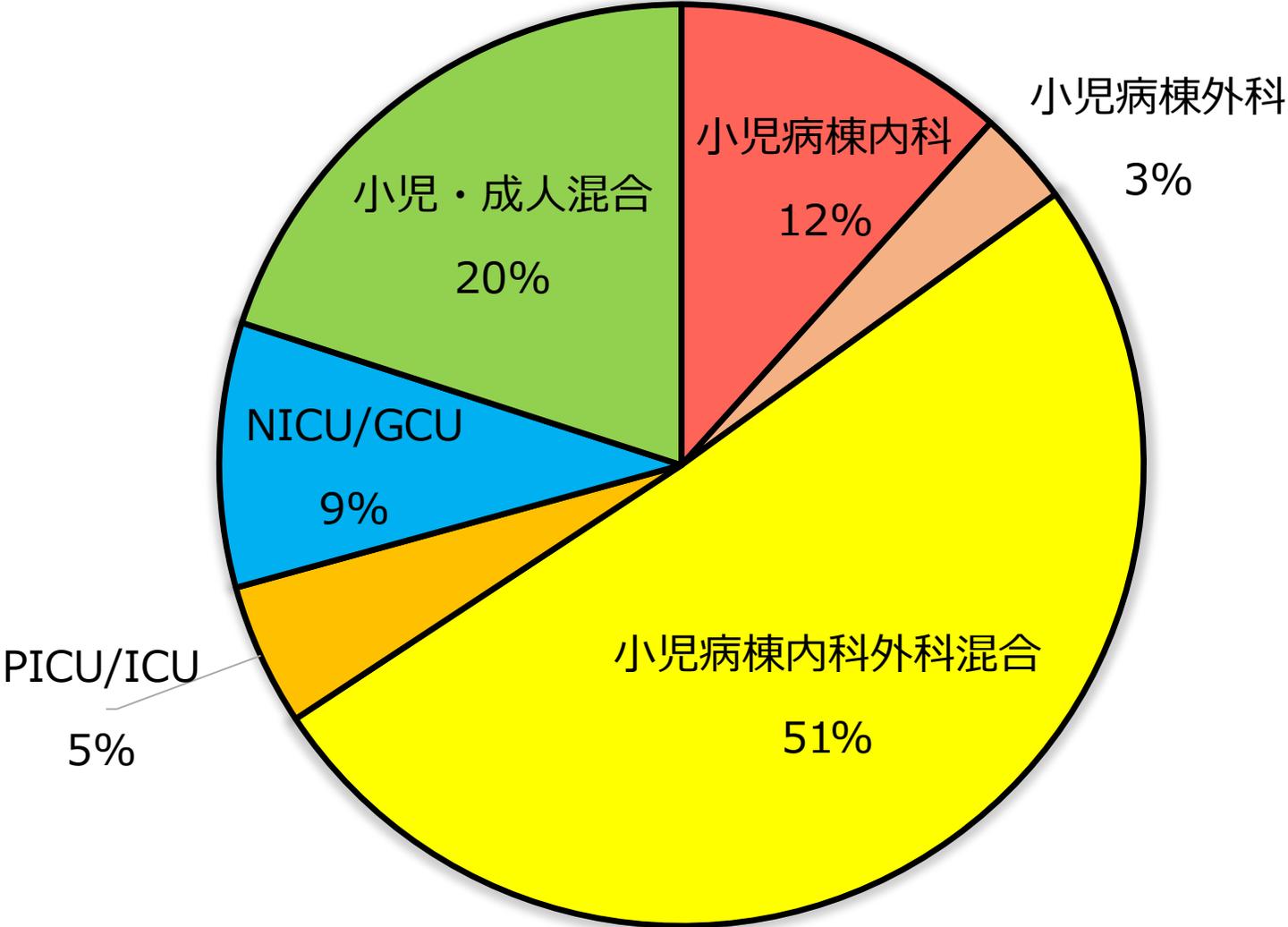
看護師への影響について

- 勤務形態等への影響
- 看護師の仕事の変化と意欲／バーンアウト
- 看護師自身の生活の困りごと

対象の属性

対象の病院の勤務病棟

スタッフ回答
N=425

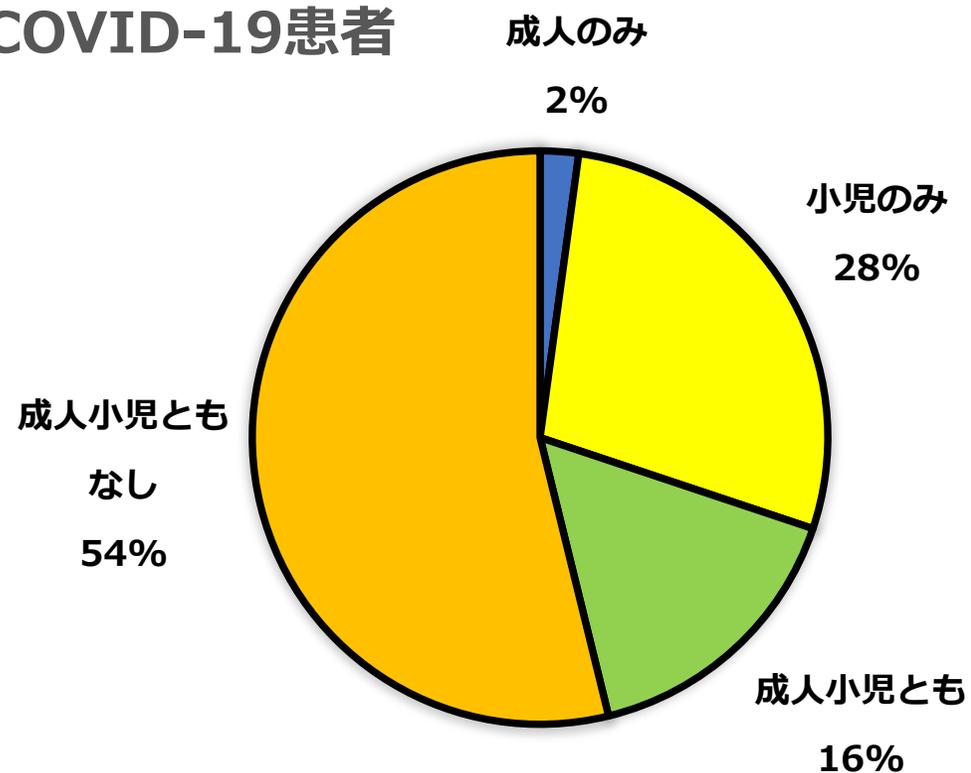


小児の病棟
ユニット 66%
混合病棟 14%
混合病棟 20%

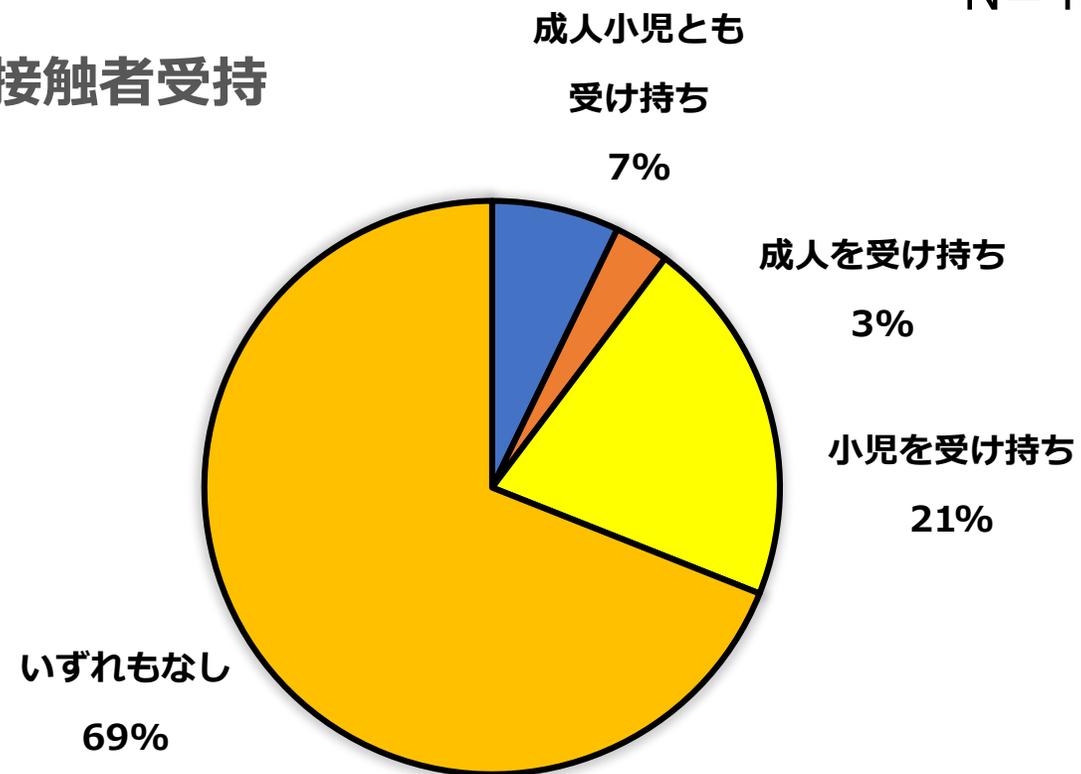
対象の病棟のCOVID-19 受け入れ

スタッフ回答
N=425

COVID-19患者

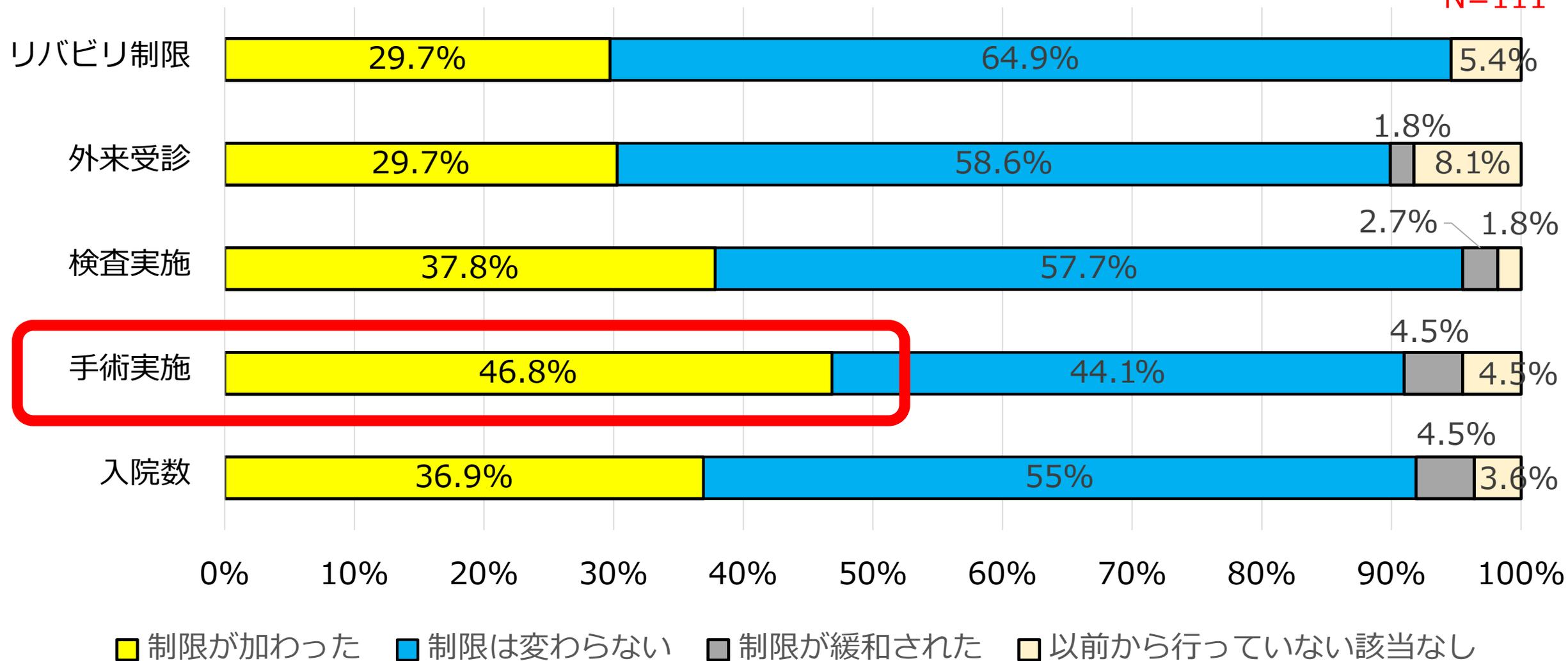


濃厚接触者受持



診療や病床管理に関する変化

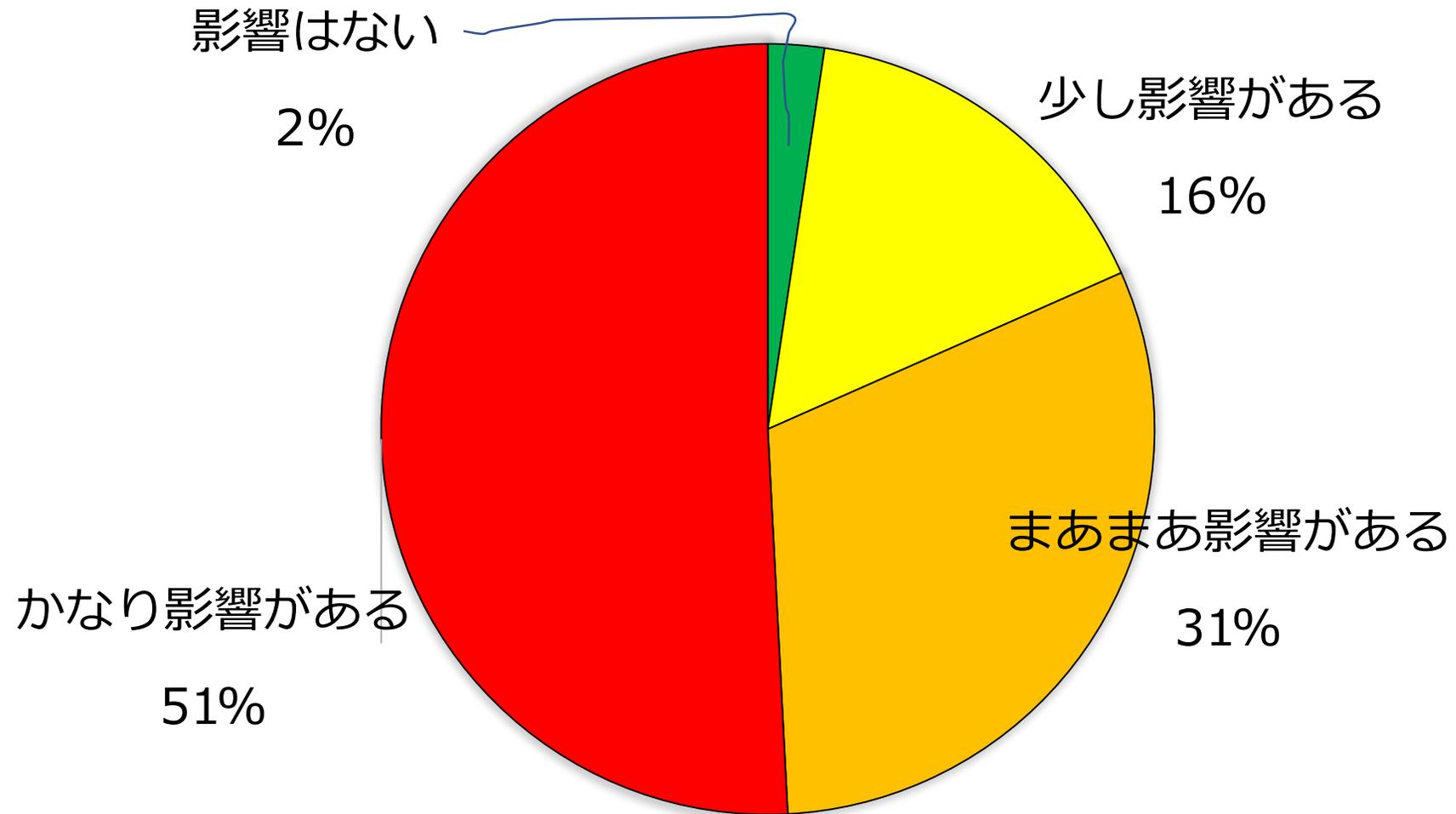
管理者回答
N=111



看護師の回答から

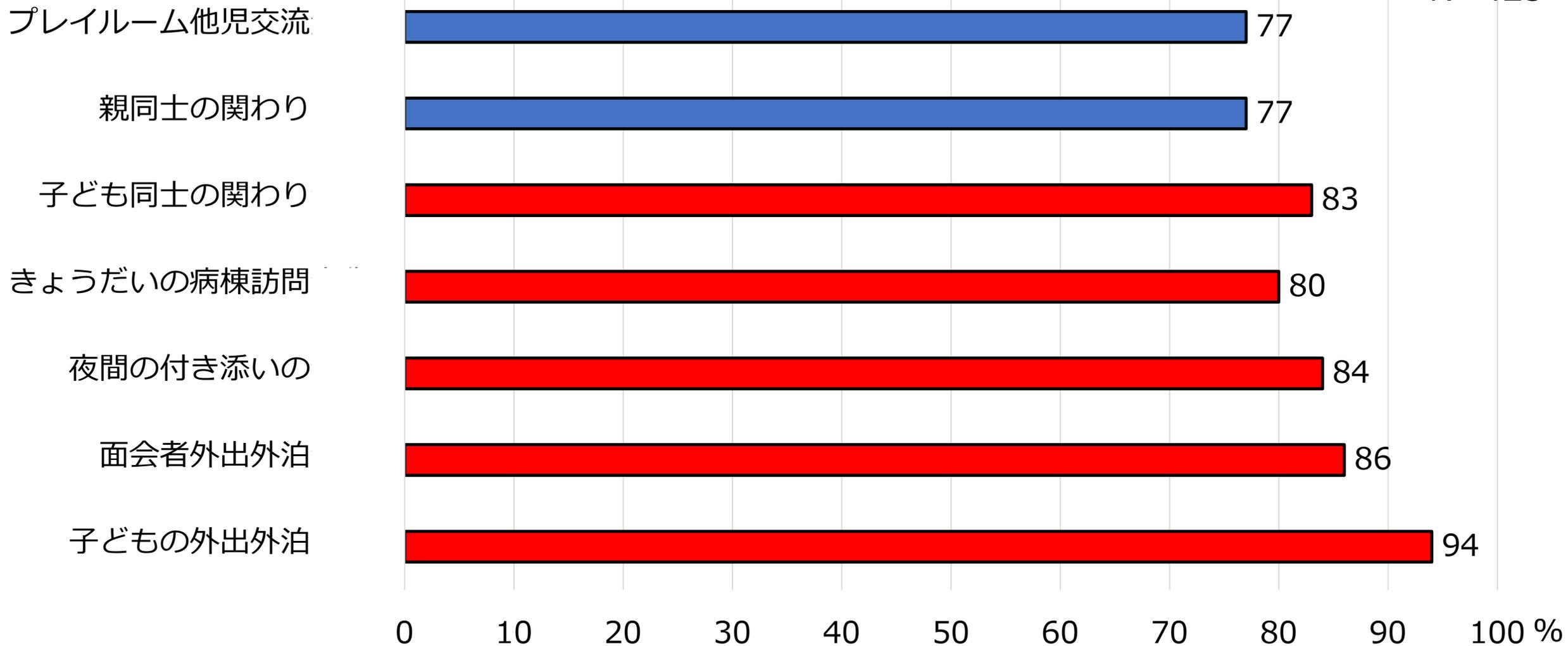
子どもの入院生活への影響

スタッフ回答
N=425



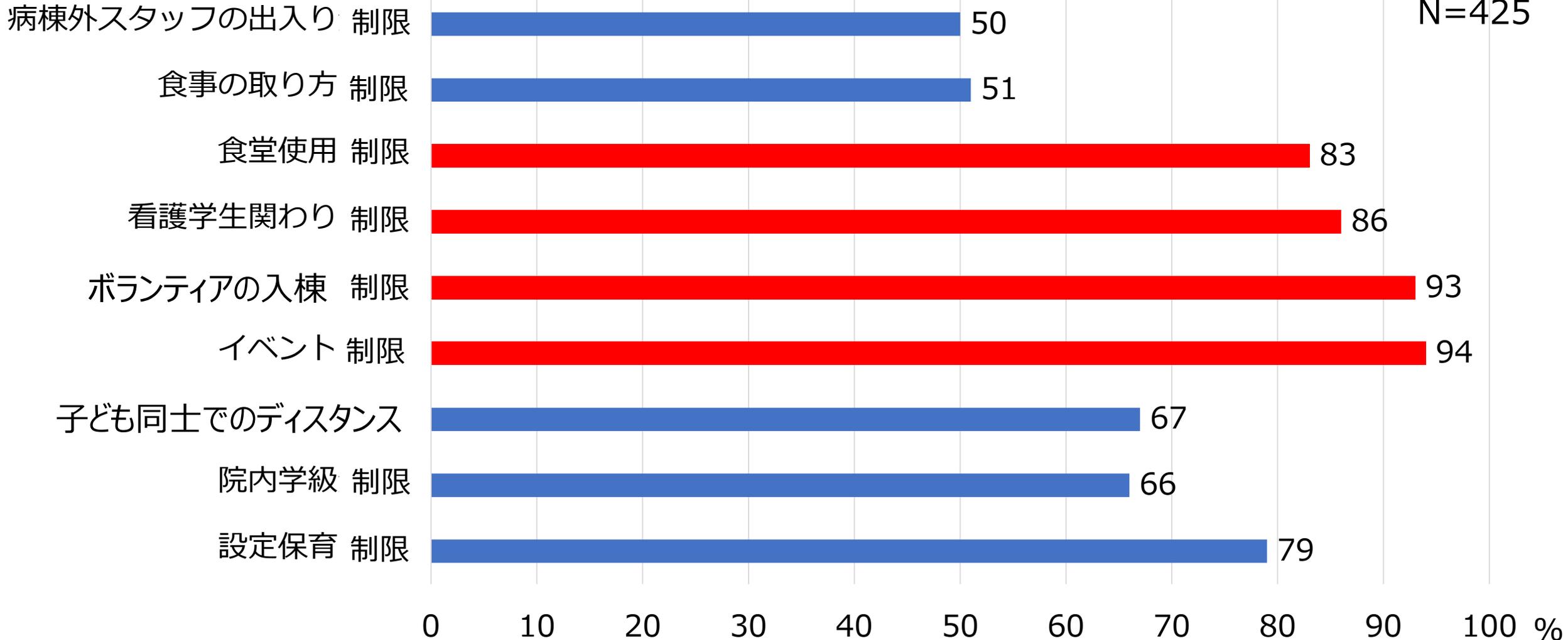
制限が加わったもの：人との関わり (%)

スタッフ回答
N=425



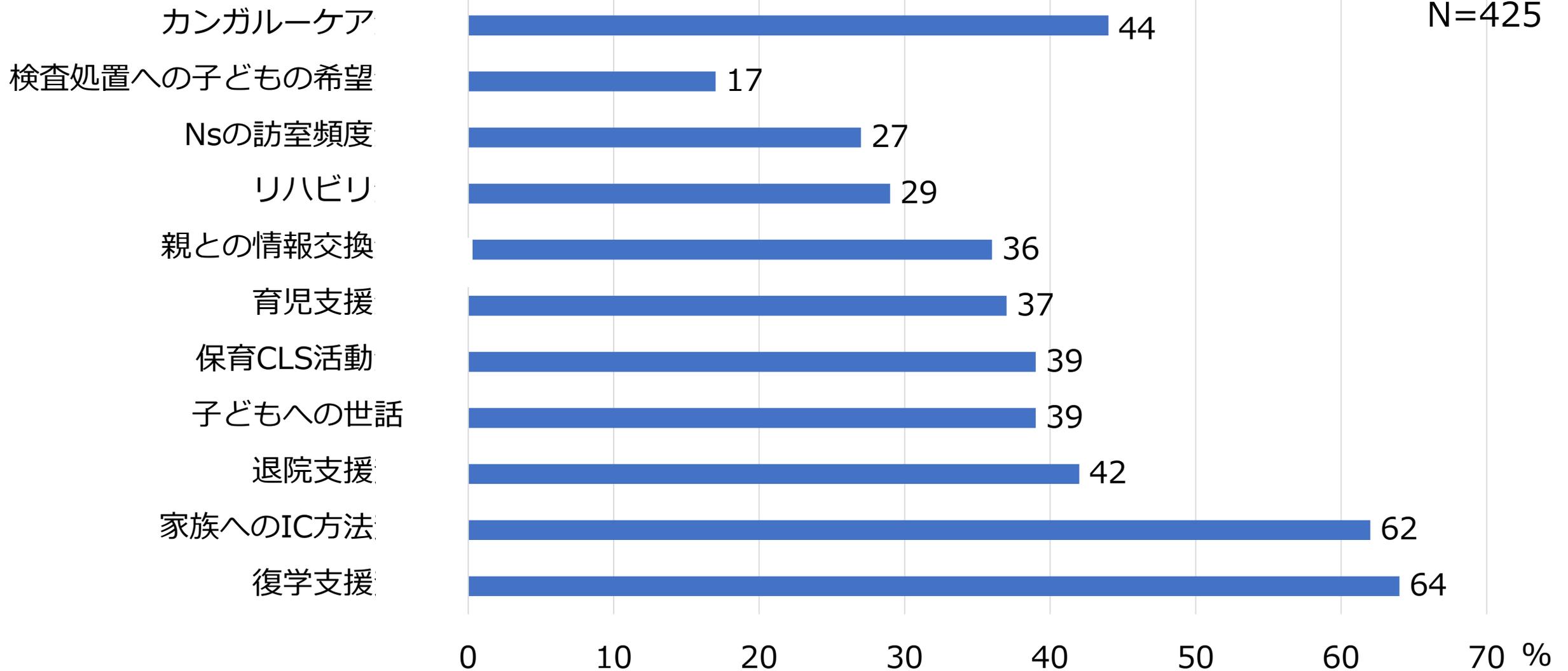
制限が加わったもの：子どもの生活・多職種の活動

スタッフ回答
N=425



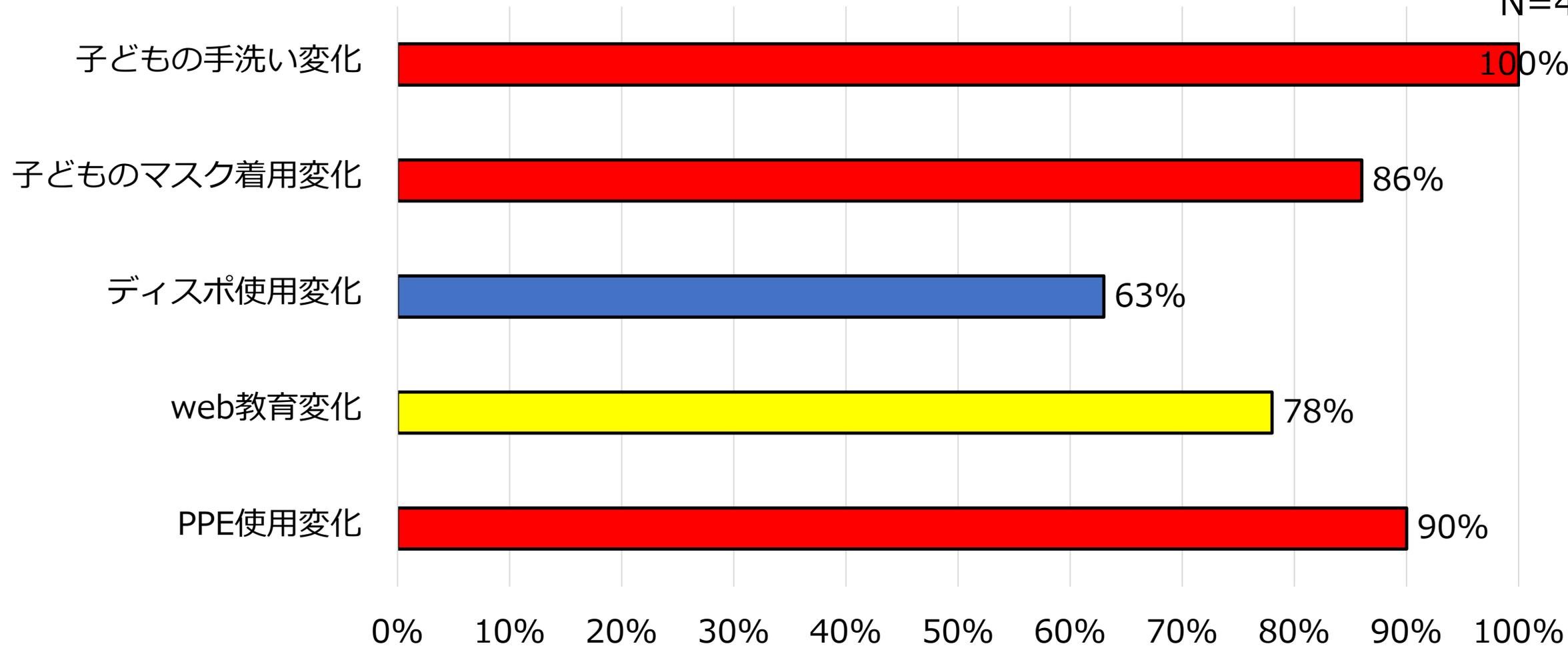
COVID-19以前とは方法が変化したと感じるケア (%)

スタッフ回答
N=425

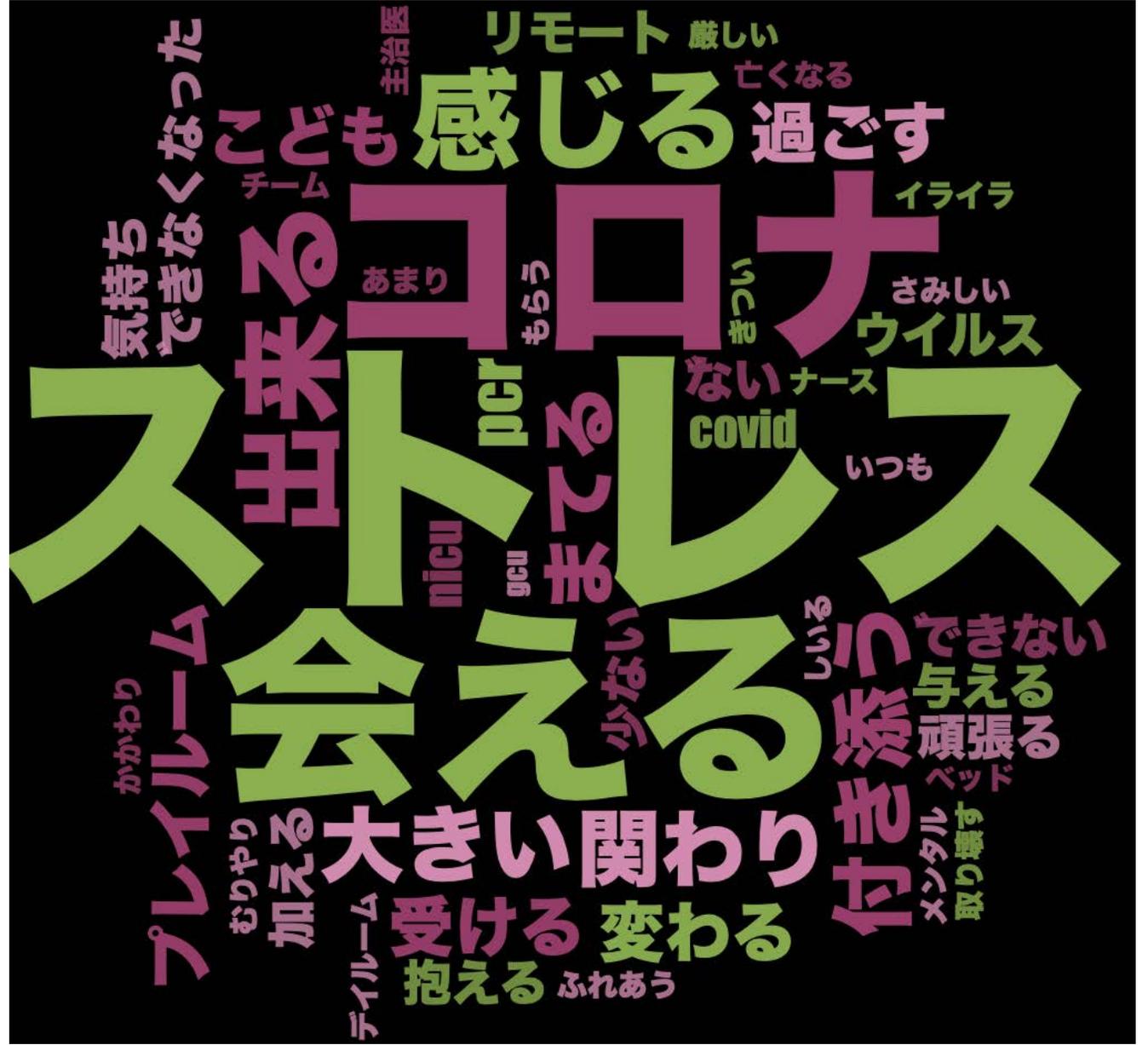


COVID-19以前よりも実施が増えたもの (%)

スタッフ回答
N=425



生活への影響 頻出語



管理者の自由記載より：感染予防策の工夫

項目	工夫の実際
子どもの年齢や状態に応じた医療者の感染予防	マスクができない子どもの場合、『アイガード/フルフェイスシールド/PPE』徹底使用
子どもが使用したものをその都度消毒	トイレ使用時はその都度消毒
感染者と非感染者をゾーニング	ベッドの間隔を開け、症状別の部屋にする もともと発熱や感染の有無で病室を分けている
年齢と状況によるマスク着用の奨励	マスクができる場合は常時マスク着用 マスクがまだできない子も多いがうまく促ししてもらう
他者との交流制限	大部屋で患者同士の交流を禁止
1人で遊ぶ環境の提供	自室、ベッド上で遊べることを保育士と考える
病棟・病室外への移動制限	基本的に病室/病棟から出ない 『コンビニ/混雑する時間帯のコンビニ』に行かない
面会・付き添い者の体調管理	付き添い者の『検温、体調確認/健康管理/検温』の実施 PCR検査を受けていない家族の付き添いはできない

スタッフの自由記載より：感染予防策の工夫

項目	工夫の実際
感染しないよう病院内外で 予防対策を徹底	看護師が感染の媒介にならない様に、標準予防策をしっかりと守る様にしている。自分が感染しないように、私生活にも注意している。
感染源と接触する機会を極力減らす	プレイルームの時間制限、部屋ごとに使用時間を決めている。 患者が密にならない様にする 部屋がちがう患者同士が関わらない様にしている。
	リモートを推奨し、なるべく病院、病棟に人の出入りが少なくなるように工夫
	検査など移動の際はできる限り外来患者との接触がない経路で行う。 プレイルームの清掃を日に2回を3回へ増やした。
普段より子どもの体調や受け持ち方法に 注意を払う	感染の疑いがある児の個室隔離 感染エリアと清潔エリアで受け持ちを分ける。
子どもや家族に感染予防対策を促す	手洗いやマスク着用の呼びかけ ご家族にも、感染症を意識した生活を提案した。

スタッフの自由記載より：子どもへの影響

子どもの状態	具体例
気分転換や社会性の成長発達への影響	患児同士の接触が減り、面会者もなく、辛い入院生活の中で気分転換、ストレス発散の場が少なくなっている
身体機能の維持・回復・成長への影響	廊下の散歩にも制限があるため、活動量が低下し、身体的な発達が遅れてしまうリスクがある
頑張れる気持ちが削がれている	親がいること、終わったらすぐに会えることで、検査や処置を頑張れるこどももいる。なかなか会えないと、いつまで頑張ればいいのか、どこまで頑張れば親に会えるのかと、どんどんつらくなる。

スタッフの自由記載より：子どもの生活への工夫(1)

付き添い・面会の方法、家族との情報共有やコミュニケーションの調整、配慮

項目	具体例
訪室頻度や滞在時間を増やし、子どもと過ごす時間を増やす	訪室機会を増やしたり、児と常に関わる事ができるよう調整 親御さんと離れて退屈して過ごす時間が多くなったので、子どもの傍で過ごす時間を増やしたこと。 面会制限などが強くかかる子には、いままでより可能な限り意識的に一緒にいる時間を長くとるように心がけている。
看護体制や受け持ちを調整する	セル看護を導入して、ベットサイドで過ごす時間を増やした。
夜間に子どもが一人で安心して過ごせる体制を組む	夜間も安心して子どもが一人で過ごせるように、看護師が1人廊下で待機し、すぐに対応できるような体制をとっている。
感染疑いの子どもの不安に対応する	検査結果が出るまでの不安が強い。声かけ
子どもの安全が守られるよう設備を整える	安全のためカメラ設置
制限がある中でも、子どもの生活リズムを意識して関わる	子どもの生活リズムに合わせて自室で遊びを提供した。

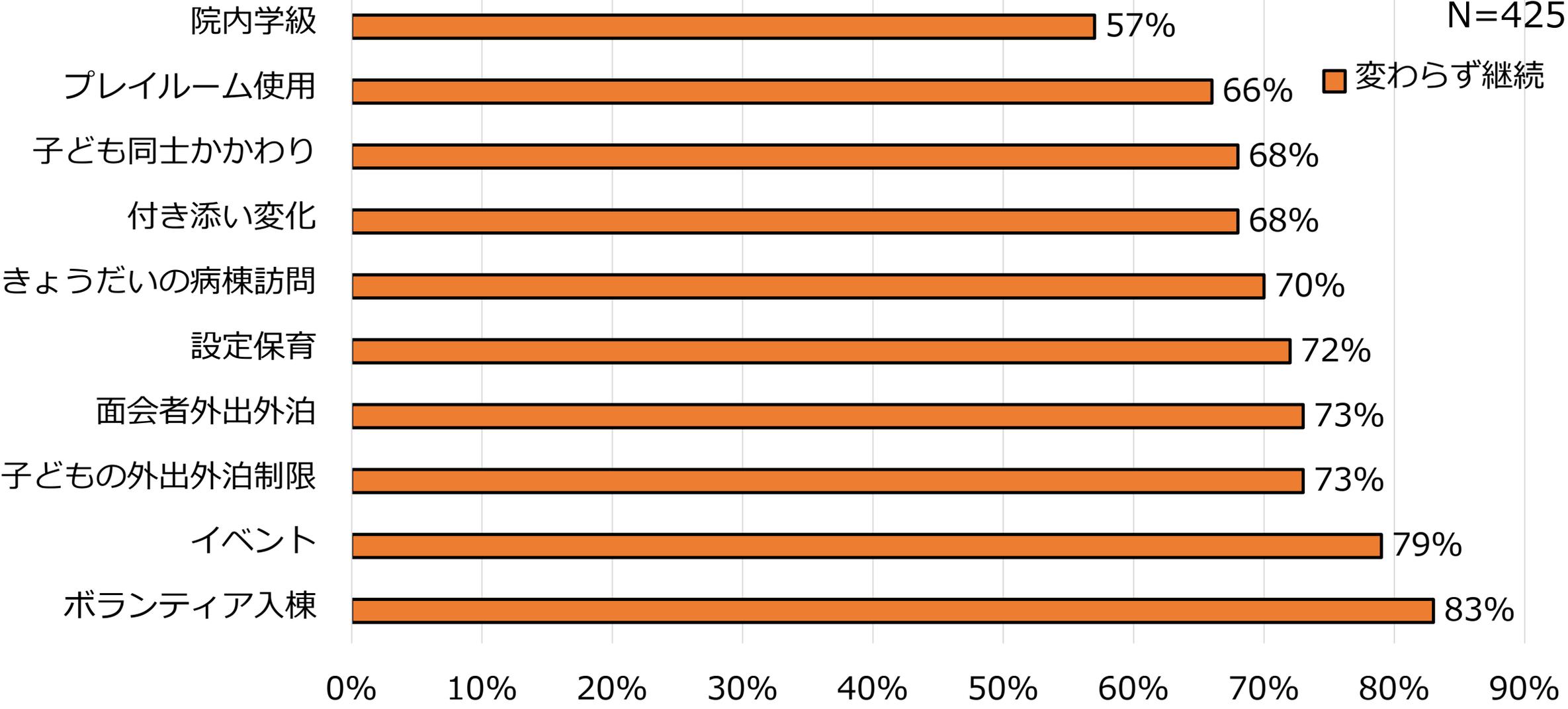
スタッフの自由記載より：子どもの生活への工夫(2)

子どもとの関わり、子どもの日常生活への配慮・対応

項目	具体例
接触せず面会できる方法を取り入れる	オンライン面会
早期退院や転棟を検討する	退院前の同室の日数延長、早期退院 宿泊レッスンの対象となっていたような家族に小児科病棟への教育入院や退院後の電話訪問、退院後の自宅訪問などを行った。
制限がある中でも安全に面会できるよう調整、配慮する	感染のフェーズによって、面会の制限を変更 家族にも感染予防対策を徹底してもらい面会を継続 5分だけでも直接面会を行う 病院全体では面会謝絶の中、小児では面会は極力最小限にしてもらいながらも体調を確認して両親に限って面会ができるよう配慮している。
面会制限を説明	面会制限の理由を親子ともにきちんと説明する。
面会時に家族へ面会時間以外の子どもの様子を伝える	家族面会の際に児の様子を家族に伝えるなど、コミュニケーションをさらに取るように、努めている。
面会以外で看護師が家族とコミュニケーションをとる機会を作る	看護師から家族に様子を伝える電話連絡をしている 面会できない時は写真を撮って渡す。患児の情報（本日の体重や哺乳量）が伝わるようなメモシートの作成
子どものことを知るために家族から話を聞く	できる限り両親が来院した時に、子どもとのエピソードを聞いてみたり、子どもの好きなことなど嫌いなこと、性格も含めて聞いている。

COVID-19拡大から2021年1月現在までの制限の継続

スタッフ回答
N=425

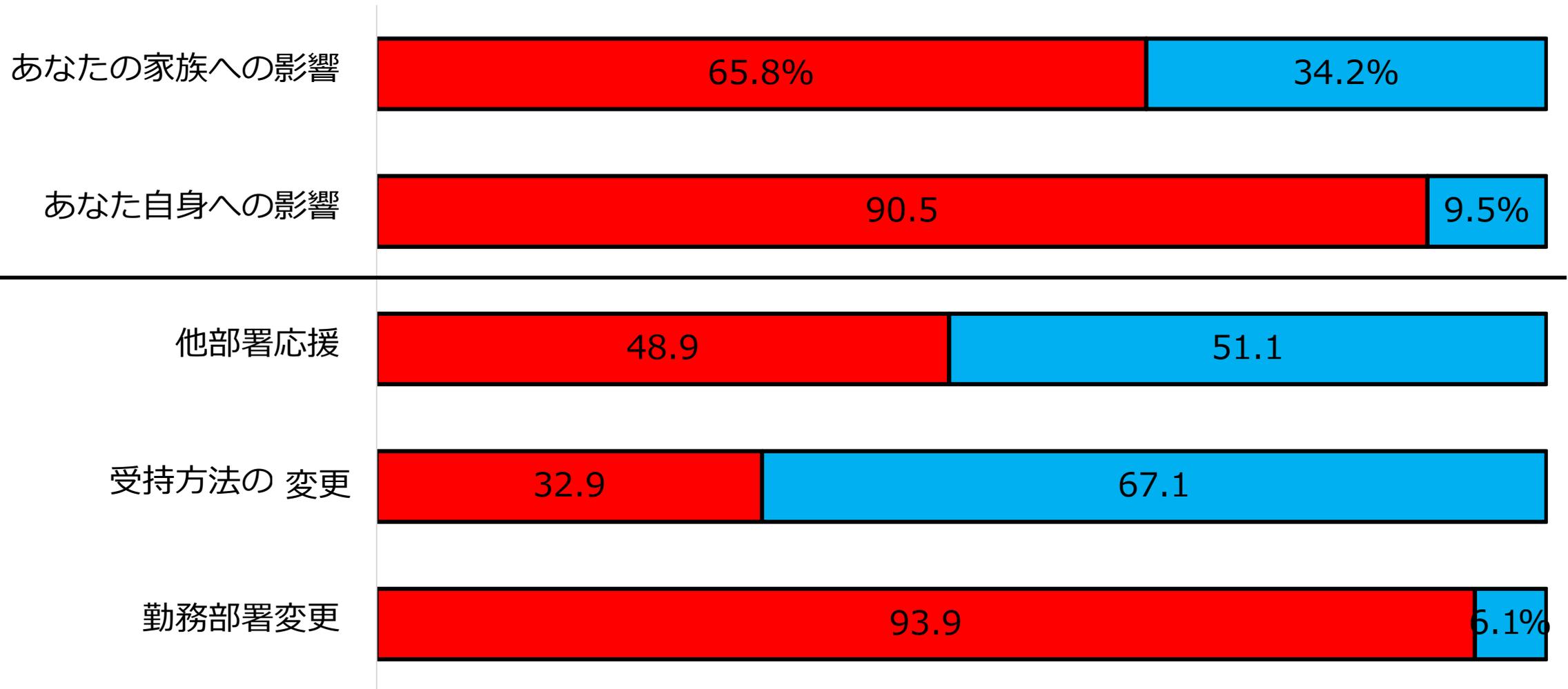


看護師自身への影響

看護師自身への影響

■あり ■なし

スタッフ回答
N=425



子ども中心の療養生活のために必要なこと

- 制限が継続している
 - 個別遊び
 - 一人学習
 - 子どもが自分で療養する・遊ぶ・学ぶが求められている
- 院内での、院内の人々の間で行われる活動についての工夫がある
- 困りの共有
- よかったと感じる実践、可能性を広げる実践の共有の必要性

ワーキングの今後の活動

- インタビューを実施していきます。
- 結果はHPに公表していきます。

どうもありがとうございました

心からの感謝を込めまして

“多くのナースたちが一人一人の子どもたちと向き合い、
今できることを精一杯やっているから、
見えない仲間たちだけど、お互いの頑張りを信じて、
今日の前にいる子どもたちを支えてほしい”

つながろう . . . 小児看護